

標 題 : Food Groups and Risk of Squamous Cell Esophageal Cancer in Northern Italy
イタリア北部における食品群と食道扁平上皮癌のリスク

著 者 : C. Bosetti, et al. (イタリア Mario Negri 薬学研究所)

掲 載 誌 : Int. J. Cancer 87: 289-294 (2000)

要 旨 : 食道扁平上皮癌の栄養的な原因をよく理解するために、我々はイタリア北部の3地域で症例-対照研究を実施した。

食道の扁平上皮癌の症例と組織学的に確認された合計304人(男性275人、女性29人)、および急性の非腫瘍疾患で喫煙、アルコール摂取それに長期間の食事変更と関係のない病院対照743人(男性593人、女性150人)を1992年から1997年の間に面接した。

認証済の食事頻度アンケートは食品品目または調理法に関する78質問からなり、それを次に19の主な食品群、および脂肪摂取パターンに関する10の質問に分類した。

年齢、性別、教育、居住地域、喫煙、飲酒および非アルコールのエネルギーを考慮した後で、スープの高い摂取で有意なリスク上昇(オッズ比OR=2.1、5段階の最高と最低)が現れたが、パスタと米(OR=0.7)、鶏肉(OR=0.4)、生野菜(OR=0.3)、柑橘類の果実(OR=0.5)では食道癌リスクとの逆関連が観察された。

食事習慣との関連は、喫煙および飲酒の異なる階層でも一致した。

追加脂質の間で、総野菜摂取を考慮した後でもオリーブ油摂取は食道癌リスクの有意な低下を示したが(OR=0.4)、しかしバター摂取はこのリスクと直接関連した(OR=2.2)。

我々の結果はこのように、生野菜および柑橘類の果実が食道扁平上皮癌リスクと逆の関連をすとの証拠の裏付を提示し、そしてオリーブ油もこのリスクを減らすと示唆している。
